

第13回カツオ資源調査・保全分科会議事録

日 時：平成30年11月5日（月）12：30～14：00

場 所：高知大学 地域連携推進センター 2F セミナー室

出席者：受田座長、山崎副座長、市川（事務局）外 資料：参加者リスト

1. 開会

座長挨拶

2. 議題

（1）カツオ県民会議幹事会の報告

- ・食文化分科会でのマイスター制度について、幹事会での了解が得られた。
- ・マイスターのいる店を認定し、表示する仕組み。ただ、認定する組織の運営基盤や持続可能性への不安もある。これはカツオ県民会議の今後の組織運営そのものへの議論にもつながる。
- ・前回の幹事会にてカツオ県民会議の組織運営についても議論された。結論として、法人格の取得を目指す点は了解された。会長としても法人格の必要性は述べられていた。
- ・法人の種類など具体については未定。例えばNPOを立ち上げるにしてもミッションや財政的な運営方針をどうするか。日本遺産やマイスター制度との関係性。観光の取り組みと県民会議との関係性をどうするか。これらを明確にする必要がある。
- ・来週12日、集まれる幹事で臨時の幹事会を開く。問題点と課題を整理しながら法人格についての検討を行う。
- ・日本遺産の地域活性化計画において運営組織が求められる。県民会議と一体的に見るか。NPOは申請して認定されるまで時間がかかる。
- ・マイスター制度の目的は地域活性化のためのPR。県民運動に結び付けていくため、県民会議が認定していることをノボリ等で示す。

（2）日本遺産認定推進WGの進捗状況

【中土佐町 水産商工課 市川氏による説明】

- ・10月11日に文化庁訪問（2回目）。ただ、10月1日に文化庁が組織再編され、異動したばかりの方との意見交換となった。事前情報ではアドバイスいただけない恐れもあったが、実際はいただけた。
- ・平成30年の認定は76件中13件と少ない。認定後に活動している団体としていない団体の差がはっきりしてきた傾向があるとのこと。文化庁としてもきちんと活動できるか判らない団体を無理して認定したくないので、日本遺産制度を守っていきたい思いが結果として現れたのでは。次回も同じ状況が続くだろう。

- ・ストーリーについて、食(カツオ)、観光をメインにした。文化庁からの指摘として、「日本遺産はそもそも各地に点在する文化財を繋いで一つのストーリーにするものであるので、きちんと文化財も取り上げること」「高知のカツオ一本釣りは有名であり、これを取り上げること自体は良いが、これで高知に行きたくなるかを良く考えること」。すこし観光サイドに寄っていたので、文化財の面で再検討する。カツオの文化財は高知にあまり無い。
- ・活性化計画について。しっかりとした推進母体が稼いで自立するべきものと事前認識していたが、補助金終了後の活動をどう継続するかが重要で、推進母体が稼ぐこと自体が重要ではなく、何らかの形で自立すること。例えば関係者が寄り集まって活動を継続していることが重要である。その意味において、カツオ県民会議の活動について評価が高い。
- ・11月15日に再度文化庁へ。

【意見交換】

- ・ストーリーはいいが、実際に現地に行くとイメージと全く異なる、ではいけない。例えばインバウンド用に看板を設置している場合が多いが、海外の方に何をメッセージとして伝えたいのかを明確に表現しなければ。日本語の看板をそのまま英語にするだけではいけない。地域活性化計画は、現場をどのようにデザイン・アレンジするか、必要な人材育成や地域内啓発をどうするか、これらを組織運営として、どこが担うかを計画に記載する必要がある。DMOのようなものがあればいいが、県民会議を母体にしながらか協議会を立ち上げ、それが3年間補助金を得つつ、自立していけるようになれば。
- ・国指定の文化財として、鳴無神社、カツオ関係では塚地坂(カツオを(も)担いで走った)、土佐清水の吉福家、中土佐の漁師町の風景。あまり有名ではないので、一言二言付け加えなければ全国の方に伝わらない。
 鳴無神社：<https://www.attaka.or.jp/kanko/dtl.php?ID=906>
 塚地坂：<https://tosa-city-kankou.com/henro/2017/10/576/>
 吉福家：https://www.city.tosashimizu.kochi.jp/kanko/g05_yoshifukuke.html
 中土佐町漁師町：<http://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/147104>
- ・文化庁からの指摘として、カツオは全国にあるので、何故高知なのかを明確にしなければならぬ。枕崎にしても焼津にしても節は残るが、生食を重んじているわけではない。高知県は生食に強いこだわりを持つ地域である。塚地坂は昼に上がったカツオを新鮮なまま夕食にお城下に届けるための道でもある。
- ・中芸のユズロードの時の進捗状況と大きくは違わないらしい。ストーリーの創出は最後まで悩みぬくもの。ただ一方で、ストーリーを実現するための母体についても議論し用意しておく必要もある。
- ・直接の受益者である観光系の絡みをどのように考えるか。日本遺産申請ワーキングでは県のコンベンション協会、幡多・高幡の観光協会が入っている。一方で観光商品を作るプロ

が必要ではないか。ユズロードの場合は入り込み客数に定量的な目標を立てて、その達成を日本遺産の成果としており、我々も最終的には観光客数の数値目標をあげることになるだろう。現状の数字は県の観光振興部等が調査している。ただ、後追いの動態である。軌跡データを取ってリアルタイムの情報を GPS をもとに解析しようとする動きもある。現状、観光客の導線が見える化できていない。

- ・ 11月11日（日）10時～12時、中土佐町においてシンポジウムを開催する。文化庁の佐藤さんに基調講演、後半のパネルディスカッションではパネリストに受田座長、地元目線で田中鮮魚店さんを予定。
- ・ 1月12日（土）に黒潮町で次回開催予定。日本遺産認定の直接の担当課長が来る予定。この場には県民会議からもお越しいただき、皆でやっている姿勢を示せば。
- ・ 運営母体について、中芸5カ町村においては任意団体としての協議会を設立し、関与自治体が予算を組み、人を出向させ、プロデューサーとして高知大学の赤池 UBC が一部関与し、運営している。移行措置であり、その後どうなるかは動きながら考えているのだろう。カツオ日本遺産では、協議会に相当するものが県民会議となり、3年後に例えば NPO になるなどのシナリオとなるのではないか。行政の継続的な支援も当然あっていいし、それが地域としての継続の道であってもいいのではないか。
- ・ 文化庁の補助金は運営母体の人件費に使えない。運営母体に属する会社には使えない。構成団体への委託はできない。

（3） WCPFC15

- ・ WCPFC15 の開催日が 2018 年 12 月 10 日～14 日。ハワイホノルルにて。県民会議でグループを組んで出席予定。分科会からの出席は受田座長、山崎副座長、千頭副座長、中土佐町市川氏、事務局市川氏の予定。県は水産振興部の岩崎課長、水産試験場の岡部氏、他に ANA 後藤支店長。
- ・ 去年の参加は手探りだった。県民会議のチラシと名刺を作って休憩時間などにロビー活動を行った。また、各国の代表団や NGO とも意見交換した。
- ・ 今年はカツオのネタがそれほど入らないかもしれない。カツオ資源調査結果が来年に一つのタームを迎えることから、来年が重要になる見込み。今年から来年をにらんで注視しておく。特に水産庁の政府団に対して、我々がカツオを常に注視していることを感じてもらうことも大事。

（4） その他

- ・ 日本経済新聞の経済教室への勝川俊雄先生（東京海洋大学准教授）と濱田弘潤先生（新潟大学准教授）の記事「水産資源どう守る⑤⑦」について紹介。漁獲規制の詳細やその効果について。

3. 次回の分科会の日程について
平成 31 年 1 月 21 日（月）
WCPFC の詳細の報告を次回。